

# 浜風町環境処理センター見学

プラあしやの会代表 松木義昭（40期）

プラあしやの会は、自分たちが住んでいる芦屋のことをもっと知りたいと年に10回ほど、座学と市の公共施設や名所旧跡を訪ねて学習しています。昨年6月11日には、私たちが何気なく捨てているごみがどういうふうに処理されているのか知りたくて、浜風町にある市の環境処理センターを見学しました。

先ず最初に市の職員から環境処理センターの施設の概要や年間どれくらいのごみを処理しているのか、それにかかる費用などを詳しく説明していただきました。その後、施設を見て回り市内全域から集められたごみがひっきりなしに収集車で運んでこられる様子を見たり、ごみを集めたピットの大きさに驚きました。次に金属などのリサイクルを行なっている作業場やペットボトルの選別と圧縮作業などを見学しました。

最近、全国各地でリチウムイオン電池が原因の火災事故が発生していますが、芦屋でも700万円で購入した収集車が火災で廃車になったそうです。リチウムイオン電池が幅広く様々な電化製品に使われている現状を踏まえて、火災事故を防ぐには市民がリチウムイオン電池を必ず分別し、可燃ごみや不燃ごみに混入させないようにと強く言われました。

また市では、家庭から出る天ぷら油（廃食油）の回収も行なっていて、集めた廃食油は航空機の燃料になっているとのことでした。

現在、芦屋市では年間約2万8千トンのごみを処理していますが、収集や焼却処分で年間約17億円かかっていることを知り、私たち一人ひとりが出来るだけごみを減らす取り組みをしなければならないと強く感じた見学会でした。

